

分野名：団体育成・サークル活動

ワーキンググループ始動

～つながる地域を目指して～

北九州市沢見市民センター【市民センター】 館長 吉弘 清美

1. 事業名

ワーキンググループ（WG）始動！！～手をつなぐまちさわみ～

2. 事業の目的

趣意書：令和4年現在、まちづくり協議会役員・部会員及び自治区会を担う構成人員の年齢は必然的に高い状況である。今後、65歳以上の就労が増えていくであろう社会状況を踏まえ、構成人員の減少・高齢化は避けられないと考える。特に重要なことは、次世代への引継ぎが成されず現状維持すら困難になる危険をはらんでいるという現実である。まちづくり協議会においては多くの若者が参画できる体制を整え、中高年・青少年との連携・連帯を図るとともに、次世代へバトンを渡せるようにしていきたい。

令和4年度目的：「持続可能な『沢見まちづくり協議会活動』検討スタートの年」と位置づけ、今後の活動を担う次世代へ無理のないバトンタッチを行うべくワーキンググループ(WG)を立ち上げ、沢見まつりへも参画する。

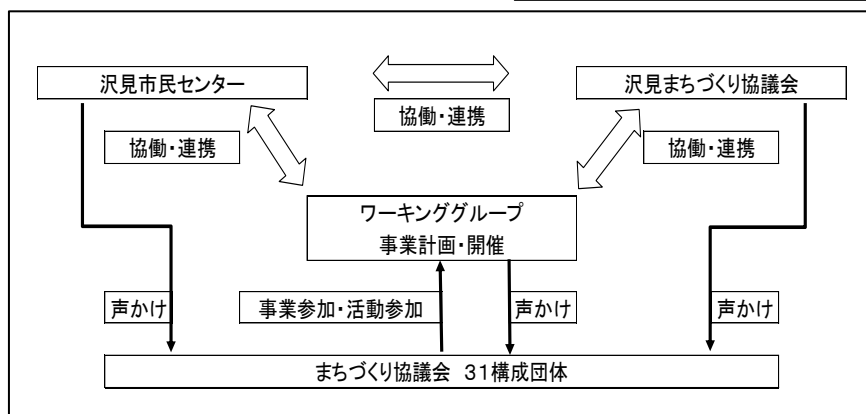
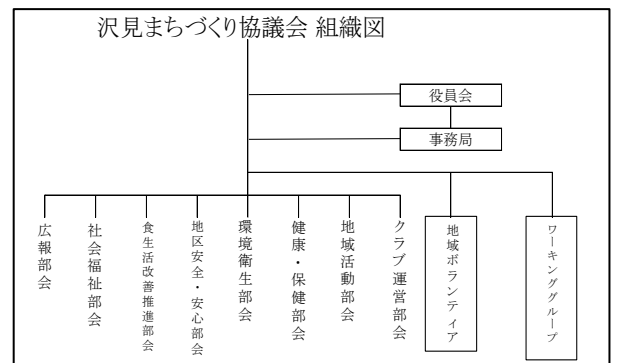
令和5年度目的：昨年度の活動を継続し、加えて次世代にまちづくりに興味を持ち主体的に関わってもらうために、政治及び選挙に焦点をあてた事業を企画する。

3. 事業の主体

沢見まちづくり協議会・沢見市民センター

4. 連携・協力機関・団体等

- ・ 沢見まちづくり協議会構成団体
北沢見地区自治協議連合会
南沢見地区自治会ほか （31団体）



5. 事業予算

令和4年度：沢見まちづくり協議会 10,000 円

北九州市 地域・人づくりモデル事業 70,000 円

令和5年度：沢見まちづくり協議会 10,000 円・沢見まつり実行委員会 30,000 円

6. 実施に至る経緯

沢見地区でも少子高齢化が如実に進む中、コロナ禍で地域行事や活動が制限され生活状況が激変し、近隣住民のコミュニケーションが希薄になっていた。そのような課題を抱える中で地域を支える後継者が育っておらず、働く世代と縦のつながりを構築することが必須であると考え、まちづくり協議会役員会において議論し、「多くの若者が参画できる事業を企画し、中高年・青少年との連携・連帯を図り、次世代へバトンを渡せるような体制を整える」という提案から“ワーキンググループ(WG)”を立ち上げるに至った。

7. プログラム作成の視点

- ・負担感なくWGへ参加してもらい呼びかけを最優先する。
- ・WGの意見交換、提案・企画を受け入れる場をつくる。
- ・初年度は児童が楽しく参加できる企画をし、働く保護者世代にまちづくりに興味関心を持っていただく。
- ・次年度以降は継続企画と新規企画を積み重ねていく。

8. 事業の内容

(1) 沢見市民センター主催事業への参加

WGメンバーに、地域・まちづくりを知っていただくため、生涯学習市民講座「生き生き子ども講座」(地域全体で子どもの成長を支援)・北九州市「未来の種事業」に参加してもらう。

(2) 沢見まつり「子どものお店」

年1回の地域交流の場「沢見まつり」に児童が中心として参加すれば、働く保護者世代に関心を持っていただけるのでは?という思いから「生き生き子ども講座」担当のセンター職員が協働し企画を進める。

① 令和4年度「子どものお店」

- ・4回の企画会議後、試作会、参加者募集、児童参加のポップ作成、班分け、買い物と準備を進め2日間の開催となった。調理、パック詰め、販売、会計を児童が行った。コロナ禍で児童への持ち帰りのみの販売となったが、参加児童は目立たないように試食をした後販売に臨んだ。

② 令和5年度「子どものお店」

- ・3回の会議後、昨年度と同じ流れで進めていった。今年度は1日のみの開催となったが、コロナが5類となり全ての方に販売し飲食も可能となった。



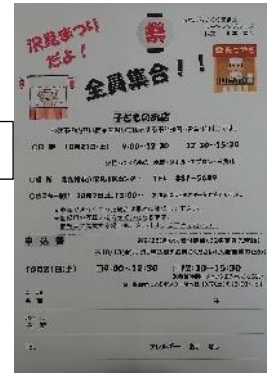
子どものお店





試作会

ちらし



(3) 「地域の未来を語る会」

今年度の新規企画を行う中で、選挙の投票率が低い！との意見が出た。政治に興味になさすぎる！投票率の低下とまちの衰退は正比例しているのではないかと危惧から、地域活性とより良いまちづくりのために「地域の未来を語る会」を企画することとした。

- ・選挙管理委員会へ近年の年代別投票率を聞き実情把握を行い協力を仰ぐ。
- ・大学、高校等と有識者への投げかけを行う。
- ・企画会議後、参加者募集を経て「地域の未来を語る会」を開催。

9. 事業の成果

- 声掛けにより徐々にWGのメンバーが増え、若い世代や地域活動に参画していなかった方々の思いや考え方に触れることができただけでなく、地域活動を知っていただく大きなきっかけづくりとなった。少人数からの会議であったので自由な意見交換ができ、保護者世代の誘い合いでWGが増えていく兆しがみえたのも収穫であると思う。
- 初年度の目標「沢見まつり」の企画では、「子どものお店」で児童が製造販売し、付添いの保護者と買い物の児童で賑わいをみせた。WGも延べ20名ほどが関わり、地域住民との交流の場ともなった。今年度の「子どものお店」では、1日だけの開催にも関わらずコロナ禍の制限がなくなったこともあり、保護者世代の協力と参加が大変多くみられた。事業継続の成果だと思う。

10. 今後の課題

- 今後は、「子どものお店」の企画は継続しつつ、「生き生き子ども講座」での企画・運営をWGの新鮮な視点で行っていき、子ども中心の催しを通して保護者世代の地域活動参画を目標として活動していきたい。また長期的には、WG活動の活性化と継続・次世代を担う人材の育成を目的としていきたい。
- 「地域の未来を語る会」はまだ未知数である為、継続を含めて試行錯誤する必要がある。
- 今後の課題は、集まっていた参加者との関わりの継続、現役世代の方々の会議時間の確保と意見交換しながら出てきた発想を実現する為のサポートではないかと考えるが、その後、無理なくいかに地域活動参画へと繋げていくかが最大の課題であると思っている。

問合せ先

北九州市立沢見市民センター

〒804-0092 北九州市戸畑区小芝2丁目1番4号

TEL093-881-5689 FAX 093-881-5689 E-mail: sm-cc@ktqc02.net